

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 ふくろう サポート	代表者	落合美智子	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自宅で過ごすような、あるいは近所の家に遊びに行くような家庭的な雰囲気でのんびり、ゆったり楽しく過ごせる小さな集いの場です。</li> <li>・ 食事は手作りを中心とし、一人ひとりの食事形態（刻み、とろみ等）に沿って工夫しています。</li> <li>・ 区や近隣の催しに合わせて被災地支援のバザーを開催する等、他の事業活動も含め法人の「地域のどんな人にも」という理念を伝えるよう運営しています。</li> </ul>
事業所名	ふくろうの家	管理者	山田 忍		
運営推進会議での評価 実施日		平成 31 年 2 月 22 日			

出席者	市区町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	人	1人	1人	3人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今後も継続して常勤者が評価することで、改善すべき点が見出せると考える。	常勤職員を中心に評価作業を行ったが、非常勤職員の意見の吸い上げは工夫によりもっと可能と思われた。	勤務形態が複雑な中、常勤中心でも一定の自己評価が出来ていると思われる。	全常勤職員に加え、非常勤スタッフの視点を評価の検討会に生かす工夫をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	推進会議の時など、事業所見学を行うことで色々なアドバイスを受け、より過ごしやすい環境作りを行う。	花壇の整備や室内の季節ごとの装飾など、過ごしやすい空間づくりには努めてきたが、事業所見学は実施できなかった。	建物内の見学会をしてほしい。	運営推進委員による事業所内外の見学会を行ない、意見・感想を頂き事業運営に反映する。
C. 事業所と地域のかかわり	今後も地域との関わりを持ち、地域に必要とされる事業所であり続ける。	地域行事には積極的に参加したが、見知らぬ人からの相談立ち寄りには多くはなく、一層の広報活動の必要性が感じられた。	小規模多機能単体ではなく、他の事業部門と一体化して知られている。被災地支援のバザーなど評価している。	地域行事への参加・参画を強化し、相談事には積極的に応え、オレンジカフェの充実など、地域と共に歩む事業所を目指す。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事等に参加することで利用者が地域に根付いた暮らしが出来よう支援していく。	利用者の地域行事への参加には努めてきたが、より頻度を上げたいと感じた。近隣の課題の拾い上げにオレンジカフェを開設した。	地域のイベントなどでふくろうの人や職員を見かける。	利用者の事業所からの散歩や地域行事への参加、買い物など外出支援について一層強化する。その為にリハビリを強化する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議にいろいろな職員が参加して、委員から直接意見を聞く機会を作る。	管理者、ケアマネ以外の会議への出席は出来なかった。	会議の参加によりお互いに勉強になっている。	年間 1-2 回担当職員以外の参加を試みる。会議では地域の心配な人の情報を共有する。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所で行われる消防訓練などに地域の様々な人の参加を得、また地域で行われる訓練等には今後も参加する。	地域の人が参加しての消防訓練は行えなかったが、結果として事業所のみでの避難・初期消火などの限界を改めて感じた。	事業所の火災や災害などについては関心を持っている。	事業所と地域の防災訓練に相互に参加し、火災や災害に強く、安心できる事業所を目指していく。